

日本・お茶の水大学での留学

ヴァッサー大学

ウーシャオメイ(サマー)

四月に日本に着き、もう四ヶ月が経って八月を迎えました。この四ヶ月間、私はお茶の水大学でとても充実した学校生活を送りました。

私はいろいろな専門授業と日本語の授業を受けました。専門授業の中には、専攻のアジア研究に関する授業が多数ありました。嶺崎寛子先生の比較社会論や、文化人類学の視点からエジプトと日本のムスリム文化について学びました。この授業を通じて、私は宗教とジェンダーのニュアンスについてもっと敏感になり、日常でもっと多様な視点で「当たり前」の主張を考察するようになりました。また、宮内先生の民俗基礎論を受講し、日本独自の民俗生活とそのフィールドワークの方法を学び、日本に



生活する中で物事により繊細な眼差しを持てるようになったと思います。他にも近代日本史や倫理学など、日本の大学でしか学べない挑戦的な内容を受講することができました。日本語の授業では、ビンデリア先生と王先生の授業を受けました。先生たちは優しく指導してくださり、日本語の知識だけでなく、日本社会の現実や問題についても紹介してくれました。講義中には面白いディスカッションも行われ、日本語とコミュニケーション能力が向上したと感じました。

校内でのサークル活動にも参加しました。民族舞踊のサークルに所属し、東京大学の五月祭で踊ることができました。お茶大や東京大学の学生に出会い、素晴らしい思い出を作ることができました。また、西坂祥平先生が主催するタンデムという言葉

学イベントにも参加しました。ペアリングで出会ったももかさんとは、毎週水曜日の午後に英語と日本語で楽しく会話しました。他にも多文化交流ワークショップなどに参加し、一緒にご飯を食べに行く友達を作ることができました。

この四ヶ月間、もちろんいろいろな観光もしました。都内の博物館や観光スポット（学生証で無料や割引ができるものが多かったです）、首都圏の大宮や箱根、鎌倉、横浜など、遠くは九州の鹿児島と大分まで行きました。神社や寺をたくさん巡り、お祭りを観て、街並みで出会った郷土料理を食べて、海と山の自然の美しさを満喫しました。



日本は私の出身地の中国や大学があるアメリカとはとても違う環境で、最初は馴染みのないことが多くありましたが、時間をかけて生活に慣れることで、日常生活を楽しむようになりました。音羽館に住んでいる間に自炊を始めたことで、料理の腕が上がった気がします。最後に、私の交換留学を支えてくれた皆さんに感謝の意を伝えたいです。国際課の大野さんと萩原先生、日本に来る前から授業やビザの情報など、いろいろと協力してくださりありがとうございます。音羽館の先生方にも、いつも日常生活でお世話になり、ありがとうございました。最後に、学生チューターの田村さん、ももかさん、そしてサークルや授業で優しく話してくれ、助けてくれた皆さんに感謝します。

